

日本堆積学会 2014 年山口大会 プログラム

<日 時> 2014 年 3 月 14 日 (金) - 17 日 (月)

14 日 (金) : ショートコース

15 日 (土) : 個人講演, 特別講演, 総会, 懇親会ほか

16 日 (日) : 個人講演, シンポジウム, 顕彰, 堆積学トーク・トークほか

17 日 (月) : 巡検 (日帰り) 「石炭-ペルム系秋吉石灰岩の礁相・礁湖相・陸上露出相」

<会 場>

山口大学吉田キャンパス大学会館ほか

山口大学吉田キャンパスへのアクセス : <http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/13/616.html>

大学会館へのアクセス (6 番) :

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/library/user_data/upload/Image/map/campus-yoshida-ja.pdf

http://www.yamaguchi-u.ac.jp/library/user_data/upload/Image/map/campus-yoshida-ja.jpg

3 月 14 日 (金)

<ショートコース : イメージスキャナを用いた砂層のファブリック解析 (実習) >

砂層断面はざとりに試料のスキャン画像を用いて, 砂粒子長軸方位の計測を行い, データの集計とマッピングなどを行います. そのためノート PC を持参する必要があります (PC には, あらかじめエクセルと ImageJ をインストールしておいて下さい).

講師 : 宮田雄一郎 氏

場所 : 山口大学 理学部本館 3F 学生実験室

3 月 15 日 (土) 会場 : 山口大学吉田キャンパス大学会館

8:55-9:00

会長挨拶

武藤鉄司

<口頭発表の部>

【座長 : 小松侑平】

O1 9:00-9:15 常磐地域沿岸域~常磐沖海域における前期中新世の分散システム

荒戸裕之・保柳康一・古内 薫・小林由季・関めぐみ・中村めぐみ

O2 9:15-9:30 西南日本白亜紀中期の堆積盆における砂岩組成変化とその意義

別所孝範

O3 9:30-9:45 新潟県三川地域中新統津川層の堆積相とシーケンス層序

成沢紗也佳・栗田裕司

O4 9:45-10:00 差別的水深条件下の二粒径混合堆積物によるデルタの応答

西川信秀・武藤鉄司

休憩 (10:00-10:10)

【座長：櫻井皆生】

O5 10:10-10:25 地中レーダ (GPR) からみる網状州の発達様式

岡崎浩子・郭 栄珠・田村 亨

O6 10:25-10:40 遠州トラフにおける安乗口海底谷埋積物の三次元サイスミック地形学的特徴

小松侑平・鈴木清史・藤井哲哉

O7 10:40-10:55 三次元サイスミック地形学と FMI ファシス解析による三陸沖前弧堆積盆北西部の始新統～漸新統河川～デルタシステムの検討

高野 修・辻 隆司・西村瑞恵・山田泰広

休憩 (10:55-11:05)

【座長：西田尚央】

O8 11:05-11:20 Hurst 指数を用いたタービダイトサクセッションの層相解析

石原与四郎・木俣圭佑・高野 修

O9 11:20-11:35 日本海信濃川・阿賀野川沖堆積物表層コアに見られる、20 世紀後半の堆積速度変化

白井正明・大村亜希子・林崎 涼・宇津川喬子・丹羽雄一

O10 11:35-11:50 ベトナム南東部ムイネーにおける過去数十年間の砂丘移動速度

田村 亨・斎藤文紀・Nguyen Van Lap・Ta Thi Kim Oanh・

Mark D Bateman・Colin V Murray-Wallace・佐藤明夫

<ポスター発表ショートトーク (奇数番号)> 11:50-12:06

1 件あたりの講演は 1 分以内とします。

【座長：山口直文】

P1 肘折カルデラ周辺における火砕流・サージ・ラハール堆積物の地中レーダ探査

片岡香子・明野智一・長橋良隆

P3 埋め立て土の堆積相

小松原純子

P5 多サイクル海水準変動のもとでの河川デルタ系移動境界の挙動: 1D 水槽実験

西田大海・武藤鉄司

P7 海底活断層帯の海底堆積物コアに認められた変形構造

仁科健二・内田康人・輿水健一・向山建二郎・荒井良祐

- P9 バックセットユニットの累重を示す塊状タービダイト砂層の粒子ファブリック
下梶秀則・宮田雄一郎
- P11 石筍酸素同位体比に記録された後期更新世の数千年スケールの変動：岐阜県中部の例
狩野彰宏・曾根知実・奥村知世
- P13 2011年東北地方太平洋沖地震津波による仙台湾の極浅海域での海底地形変化
後藤和久・有働恵子・菅原大助・武田百合子
- P15 日本海側の沿岸からの津波イベント認定の試み（予報）
高清水康博・卜部厚志・片岡香子・川上源太郎・仁科健二・平川一臣
- P17 磁気異方性を用いた東北地方太平洋沖地震の津波堆積物の堆積過程
昆 周作・飯嶋耕崇・中村教博・菅原大助・後藤和久
- P19 砂質堆積物の X 線 CT 画像の処理手法の検討
場谷 徹・横川美和・中野 司・上杉健太郎
- P21 岩盤上のサイクリックステップの形成過程についての実験的研究
京極晃年・小寺 彰・横川美和・泉 典洋
- P23 石灰質堆積物によるステップ地形形成に関する実験的研究
下西達也・横川美和・Kim Wonsuck・泉 典洋・Parker Gary
- P25 波浪影響下のデルタフロントにおけるサイクリックステップ起源のフォーセット成層構造
田邊一步・武藤鉄司・関口智寛
- P27 蛇行モデル実験における粘着性と飽和度による河道形態の違い
吉田一希・宮田雄一郎
- P29 混濁流内部の混合粒径の浮遊砂濃度分布：水槽実験による検討
姚 奇峰・成瀬 元
- P31 水槽実験による海底チャネル発達条件の検討
佐藤亘孝・成瀬 元

昼休み（12:06-13:05）

<ポスター発表の部> 13:05-14:10

ポスターは3月15日（土）8時30分より掲示できます。3月16日（日）の17時00分までに撤収をお願いします。

<口頭発表の部>

【座長：川村喜一郎】

OP1 14:10-14:55 特別講演：オリストストロームとメランジュの今日の問題

小川勇二郎

【座長：小松原純子】

- O11 14:55–15:10 モンゴルの年縞湖成層のラミナレベル解析：白亜紀中期“超温室期”の
数年～数十年スケール気候変動の解明に向けて
長谷川精・安藤寿男・太田 亨・長谷川卓・山本正伸・長谷部徳子・
村田崇行・新谷広紀・Li Gang・Ichinnorov Niiden・西本昌司・
山口浩一・岩間由希
- O12 15:10–15:25 異なる地表植生下における鍾乳石成長過程の相違－南大東島を例として－
鹿島美香・佐藤祐也・吉村和久・嶋田 純・松田博貴
- O13 15:25–15:40 生物の働きによって形成される石灰岩ダム地形
泉 典洋・Gary Parker

休憩（15:40–15:50）

【座長：吉河秀郎】

- O14 15:50–16:05 渡良瀬川支流を例にした砂礫の岩質と円磨度変化に基づく砂の生成過程
の推定
宇津川喬子・白井正明
- O15 16:05–16:20 EBSD を用いた砂粒子配列の 3 次元分析
石丸卓哉・成瀬 元
- O16 16:20–16:35 ヘリカル X 線 CT によるボーリングコアの 3 次元堆積構造観察
大嶋章浩・原口 強・田尻雄大
- O17 16:35–16:50 基本的（初歩的）知識を振り返る－碎屑性堆積物の観察・研究にあたって
の要諦
志岐常正

<総会> 17:00–18:00

<懇親会> 18:30–20:30（会場：ホテルニュータナカ）

3 月 16 日（日）

<口頭発表の部>

【座長：阿部朋弥】

- O18 8:45–9:00 細粒タービダイトの構造と堆積過程
池原 研・宇佐見和子・西田尚央

- O19 9:00-9:15 円磨度組成を用いたリアス式海岸からの津波堆積物の認定
高清水康博・飯吉麻衣子・ト部厚志
- O20 9:15-9:30 2013年7月の豪雨に伴い山口市阿東に形成された洪水堆積物の堆積学的特徴
山田昌樹・飯嶋耕崇・昆 周作・後藤和樹・寺島はつき・藤野滋弘
- O21 9:30-9:45 宮崎平野における津波堆積物と隆起イベント（予察）
市原季彦・木下博久・山田圭太郎・株式会社加速器分析研究所
- 休憩（9:45-9:55）

【座長：山田昌樹】

- O22 9:55-10:10 北海道南西部奥尻島で認められた津波堆積物の堆積学的特徴
加瀬善洋・仁科健二・林 圭一・川上源太郎・輿水健一・高清水康博・
嵯峨山 積・渡邊達也・高橋 良・廣瀬 亘・大津 直・石丸 聡・
深見浩司・田近 淳・ト部厚志
- O23 10:10-10:25 2011年東北地方太平洋沖地震津波による浅海底津波堆積物：仙台湾南部
浅海域での調査結果
吉河秀郎・金松敏也・坂本 泉・藤巻三樹雄・八木雅俊・
井村理一郎・根元謙次・後藤和久・阪口 秀
- O24 10:25-10:40 2011年東北沖津波に伴う堆積土砂量の地形別特徴
阿部朋弥・後藤和久・菅原大助
- 休憩（10:40-10:50）

【座長：加瀬善洋】

- O25 10:50-11:05 津波堆積物の層厚の支配要因 —2パーセント問題—
後藤和久・菅原大助・柳澤英明
- O26 11:05-11:20 津波堆積物はなぜ薄いのか？—流れの浮遊砂キャパシティ問題再考—
成瀬 元・後藤和久・菅原大助
- O27 11:20-11:35 堆積粒子の巻き上げに伴うエネルギー散逸を考慮した津波土砂移動の
計算と検証
菅原大助・成瀬 元・後藤和久

<ポスター発表ショートトーク（偶数番号）> 11:35-11:52

1件あたりの講演は1分以内とします。

【座長：長谷川精】

- P2 伊勢湾南西部榑田川河口におけるウォッシュオーバー・ファンとその形態

中条武司

- P4 表層地質情報から推定した大阪堆積盆地北部の地下構造
櫻井皆生
- P6 液状化によらない砂層の流動変形 —上総層群梅ヶ瀬層タービダイト砂層の例—
田中恭平・宮田雄一郎
- P8 ガスを含んだ砂層の強度と変形様式
宮田雄一郎・田中恭平
- P10 石炭—ペルム系秋吉石灰岩の堆積相と陸上露出組織・シーケンス境界
中澤 努・上野勝美・藤川将之
- P12 人工構造物が津波堆積物と逆級化層形成に与える影響
飯嶋耕崇・箕浦幸治・後藤和久・菅原大助・阿部朋弥
- P14 持ち運び可能な教材用津波演示装置の開発
杉山諒介・横川美和
- P16 東日本大震災後の八戸沖と仙台沖の水深 2000 m までの海底の比較
藤井美南・川村喜一郎・豊福高志・小栗一将・金松敏也・
新井和乃・村山雅史
- P18 カディス湾（スペイン—ポルトガル）泥質コンターライトの微細組織
西田尚央・Hernández-Molina, F.J.・Stow, D.A.V.・Alvarez-Zarikian, C.・
IODP 第 339 次航海乗船研究者
- P20 数値実験による砂丘形態の変形
勝木厚成
- P22 2013 年台風 18 号の増水によって京都府南部木津川の高水敷にできたベッドホーム
坂本隆彦
- P24 アンティデューンとサイクリックステップの形態比較
横川美和
- P26 カナダ・ブリティッシュコロンビア州の河口デルタ上に見られるサイクリックステップ
の形態
山本真也・横川美和・Hughes Clarke John・泉 典洋
- P28 奥行きカメラを用いた水面の可視化の検討
西田 巧・横川美和・西口敏司
- P30 陸上に遡上した津波の堆積過程：水槽実験による予察的検討
山口直文・関口智寛
- PS1（シンポジウム） 海底地すべりの発生メカニズム—南海トラフと日本海溝—
川村喜一郎・金松敏也
- PS2（シンポジウム） 宮崎層群高鍋層に発達する含礫泥岩を伴う海底地滑り堆積物
鈴木祐一郎

昼休み (11:52-13:00)

<ポスター発表の部> 13:00-14:05

ポスターは3月15日(土)8時30分より掲示できます。3月16日(日)の17時00分までに撤収をお願いします。

シンポジウム「海底地すべり：その発生する環境と今後の課題」

コンビーナ：森田澄人・山田泰広・川村喜一郎

14:05-14:10 趣旨説明 森田澄人

【座長：山田泰広】

OS1 14:10-14:25 南海トラフ上部陸側斜面に発達する地すべり層の流動過程：磁気ファブリックによる解析

金松敏也・川村喜一郎・北村有迅・Beth Novak・Michael Strasser

OS2 14:25-14:40 仙台沖における現在活動的な海底地すべりの可能性を考える

仁田 彩・笠谷貴史・川村喜一郎

OS3 14:40-14:55 緩傾斜陸棚斜面における大規模海底地すべりの分布と構造 ～下北半島沖三次元反射法地震探査に基づく研究～

中村祐貴・森田澄人・芦寿一郎

OS4 14:55-15:10 天然ガスと海底地すべりの相互作用シナリオ

森田澄人

休憩 (15:10-15:20)

【座長：森田澄人】

OS5 15:20-15:35 第二渥美海丘で見られた海底すべり体の密度構造

鈴木清史

OS6 15:35-15:50 デコルマの発達様式から類推する海底地滑りの発生様式

氏家恒太郎

OS7 15:50-16:05 モデル実験に見る斜面崩壊パターンと海底地すべりへの応用

山田泰広・中桐寛仁・松岡俊文

OS8 16:05-16:20 海底地すべり様式の時空間変化：陸上露頭から何が見えるのか？

山本由弦

16:20-16:45 総合討論

司会：森田澄人

<事務連絡> 16:45-16:50

<最優秀口頭発表賞ならびに最優秀ポスター賞の発表と授賞式> 16:50-17:00

休憩 (17:00-17:10)

<堆積学トーク・トーク> 17:10-19:00 「ススメ! 海底地すべり学」

注意事項

<口頭発表>

- *一般講演の口頭発表は発表 12 分，質疑応答 3 分です。発表時間を厳守して下さい。
- *口頭講演は液晶プロジェクターの使用を標準とします。会場側でパソコン (Windows, Macintosh) を 1 台ずつ用意します。口頭発表される方はファイルの入った CD もしくは USB メモリを持参下さい。なお，持参いただくメディアおよびファイルにつきましては，ウィルス対策ソフトの最新定義で事前にチェックを頂きますようお願い致します。ファイルは遅くとも講演前の休憩時間までに会場の PC に直接コピーしてください。心配な方はご自分のパソコンを持参ください。

<ポスター発表>

- *ポスターは 15 日と 16 日の 2 日間にわたって掲示することができます。ポスター 1 件あたりの展示可能スペースは縦 170 cm，横 82 cm です。
- *ポスター発表のショートトークは 1 人 1 分以内でお願いします。液晶プロジェクターを使用して発表する場合，使用するスライドはタイトルスライド以外に 1 枚でお願いします。なお講演を円滑に進めるために，用意して頂いたスライドはあらかじめこちらで 1 つのファイルにとりまとめます。3 月 10 日までに講演の申し込みアドレス宛に，パワーポイントファイルを送付いただくようお願い致します。